



JFE

JFEホールディングス株式会社

2022年3月期 第1四半期 決算説明会（インベスターズ・ミーティング）

2021年8月12日

登壇

司会：ご参加の皆様、大変長らくお待たせいたしました。これより、JFEホールディングスのインベスターズ・ミーティングを開催させていただきます。

本日の出席者は、寺畑代表取締役副社長、田中専務執行役員でございます。

それでは、初めに寺畑副社長よりご挨拶申し上げます。

寺畑：寺畑でございます。本日は、ご多用の中、また新型コロナウイルスの感染拡大がまだ収束しない中ではございますが、弊社のインベスターズ・ミーティングにご参加いただきまして誠にありがとうございます。

また、日ごろより弊社に対して格別なご関心をお寄せいただき、この場をお借りいたしまして、改めて御礼を申し上げます。

それでは、本日発表いたしました2021年度第1四半期決算、及び業績見通しの詳細につきまして、専務執行役員の田中よりご説明申し上げます。

ご質問は、後ほど一括してお受けいたします。よろしく願いいたします。



- 前年度下期以降の**世界各国の経済の持ち直しが継続**
- 世界全体の経済回復基調のもと、**堅調な鋼材需要と鋼材市況等**により、鉄鋼事業を中心に**収益は大幅に回復**した

(億円)	2020年度 第1四半期	2021年度 第1四半期	増減
売上収益	7,439	8,889	1,450
事業利益	▲472	883	1,355
金融損益	▲32	▲29	3
セグメント利益	▲504	854	1,358
個別開示項目	-	-	0
税引前利益	▲504	854	1,358
税金費用・非支配持分帰属当期利益	112	▲234	▲346
親会社の所有者に帰属する当期利益	▲391	619	1,010

事業利益：税引前利益から金融損益及び金額に重要性のある一過性の項目を除いたもの
セグメント利益：事業利益に金融損益を含めたもの

4

田中：田中でございます。それでは、本日4時にホームページに掲載をいたしました、インベスターズ・ミーティング資料に基づきましてご説明をさせていただきます。

まず、第1四半期の決算の実績でございます。4ページ目をご覧ください。

今期であります。昨年の下期以降、世界各国の経済の持ち直しが継続しています。そういった中で、鋼材需要が堅調で且つ、鋼材市況も非常に上がっており鉄鋼事業を中心に収益が大幅に回復しました。

数字につきましてはご覧のとおり、売上収益の第1四半期の実績は8,889億円、事業利益が883億円、セグメント利益合計で854億円、当期利益619億円ということで、前年度同期、第1四半期と比較いたしますと、売上で1,450億円、20%程度の増収で、利益項目については1,300億円、1,000億円といったレベルの大幅な改善となりました。



2021年度 第1四半期決算概要 セグメント別

JFEホールディングス

JFE

(億円)	2020年度 第1四半期	2021年度 第1四半期	増減
売上収益			
鉄鋼事業	5,087	6,385	1,298
エンジニアリング事業	1,050	1,030	▲20
商社事業	2,380	2,616	236
調整額	▲1,079	▲1,142	▲63
合計	7,439	8,889	1,450
事業利益 (A)	▲472	883	1,355
金融損益 (B)	▲32	▲29	3
セグメント利益			
鉄鋼事業	▲578	697	1,275
エンジニアリング事業	15	42	27
商社事業	44	115	71
調整額	13	▲0	▲13
合計 (A+B)	▲504	854	1,358

5

次に、これをセグメント別に開いておりますが、ご覧のとおり、売上についても、鉄鋼事業で前年同期比約1,300億円の増収となっているところが中心です。利益につきましては、セグメント利益は、全体で1,358億円の改善のうち、やはりこれも鉄鋼事業は、赤黒も変わっておりますので、1,275億円という大幅な改善でございます。

加えて、エンジニアリング事業、それから商社事業につきましても、去年同期と比べますと増益ということでありまして、全セグメント増益ということになりました。



- 上期は、鉄鋼事業の需要回復や市況上昇を主因に、**事業利益は1,950億円の大幅黒字**の見通し
- 国内外の経済の持ち直しを背景として、鋼材需要回復や鋼材市況の上昇等により、**通期の事業利益は3,500億円（前年度比+3,629億円）**の見通し

(億円)	2020年度実績		2021年度見通し		増減	
	上期	年間	上期	年間	上期	年間
売上収益	14,922	32,272	19,700	41,700	4,778	9,428
事業利益	▲1,143	▲129	1,950	3,500	3,093	3,629
金融損益	▲64	▲124	▲50	▲100	14	24
セグメント利益	▲1,207	▲254	1,900	3,400	3,107	3,654
個別開示項目	—	204	—	—	0	▲204
税引前利益	▲1,207	▲49	1,900	3,400	3,107	3,449
税金費用・非支配持分帰属当期利益	150	▲169	▲600	▲1,000	▲750	▲831
親会社の所有者に帰属する 当期利益	▲1,057	▲218	1,300	2,400	2,357	2,618

7

次に、業績の見通しでございます。

年度の業績の見通しであります。まず上期について、鉄鋼事業においては、需要回復、市況上昇ということで事業利益については1,950億円を見込んでございます。それから、年間についてですが、こちらも同様の回復傾向ということで、連結の事業利益3,500億円という今回の見込みとなっております。当期利益で言いますと、上期で1,300億円、年間では2,400億円といった数字であります。

この表は、前年度の実績と比較しておりますが、ご覧のとおり、昨年度は赤字でありましたので、前年度比で大幅な増益ということは、先ほど説明しました第1四半期決算と同様でございます。



2021年度 業績見通し セグメント別

JFE

(億円)	2020年度実績		2021年度見通し		増減	
	上期	年間	上期	年間	上期	年間
売上収益						
鉄鋼事業	10,272	22,552	14,500	31,300	4,228	8,748
エンジニアリング事業	2,219	4,857	2,400	5,200	181	343
商社事業	4,517	9,325	5,600	11,500	1,083	2,175
調整額	▲2,086	▲4,461	▲2,800	▲6,300	▲714	▲1,839
合計	14,922	32,272	19,700	41,700	4,778	9,428
事業利益 (A)	▲1,143	▲129	1,950	3,500	3,093	3,629
金融損益 (B)	▲64	▲124	▲50	▲100	14	24
セグメント利益						
鉄鋼事業	▲1,362	▲654	1,600	2,800	2,962	3,454
エンジニアリング事業	87	240	100	250	13	10
商社事業	72	200	230	380	158	180
調整額	▲4	▲41	▲30	▲30	▲26	11
合計 (A+B)	▲1,207	▲254	1,900	3,400	3,107	3,654

8

これをセグメント別に展開したものでございます。

売上につきましてはご覧のとおりです。利益についてですが、セグメント利益に関しては、鉄鋼で言いますと上期で1,600億円、年間で2,800億円という数字でございます。エンジについては年間で250億円、商社事業は年間で380億円といった内訳になっておりまして、昨年度との増減という点では、鉄鋼で約3,450億円という大幅な増益を見込んでおります。

加えて、商社も年間セグメント利益は380億円を見込んでおり、昨年度と比較いたしますと180億円の大幅な増益の見通しとなっております。

JFEホールディングス連結事業利益は3,500億円（前回比+1,500億円）の見通し

(億円)	前回見通し (A)	今回見通し (B)	差異 (B-A)
売上収益	39,300	41,700	2,400
事業利益	2,000	3,500	1,500
鉄鋼事業	1,400	2,800	1,400
エンジニアリング事業	250	250	0
商社事業	270	380	110
セグメント利益（調整額込み）	1,900	3,400	1,500
親会社の所有者に帰属する当期利益	1,300	2,400	1,100

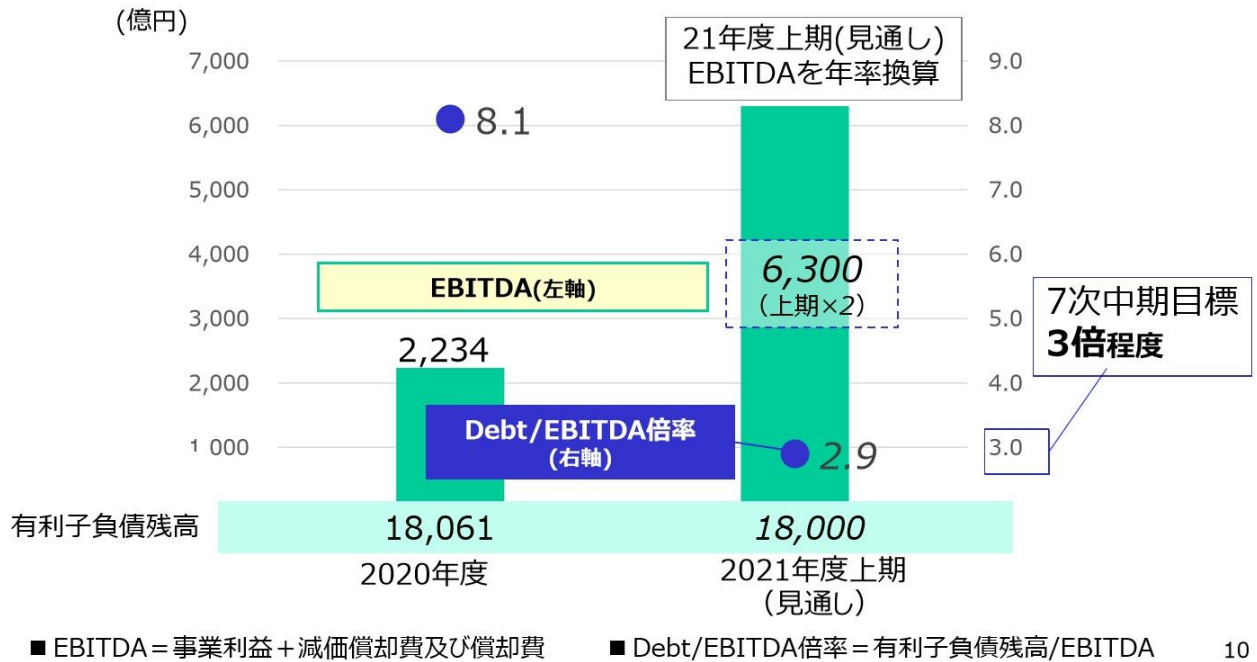
事業利益：税引前利益から金融損益及び金額に重要性のある一過性の項目を除いたもの セグメント利益：事業利益に金融損益を加えたもの

9

5月の決算発表時に見通しを申し上げましたので、そのときとの数字の比較をつけてございます。5月の時点では、年間事業利益見通し 2,000 億円、それから年間当期利益では 1,300 億円と申し上げておりました。

これと比較いたしますと、今回見通しを B 欄に記載しておりますが、今申し上げましたように、年間事業利益見通しは 3,500 億円ということで、前回見通し比 1,500 億円の上方修正ということになります。セグメント利益の合計でも同様に前回見通し比 1,500 億円の増益です。内訳としては、ご覧のとおり鉄鋼が 1,400 億円から 2,800 億円と倍増でありますので前回見通し比 1,400 億円の上方修正。それと商社での増益というところが内訳でございます。当期利益についても 1,100 億円の上方修正です。

2021年度上期末のDebt/EBITDA倍率は、7次中期目標レベルに到達（2.9倍）



Debt/EBITDA 倍率でございますが、こちらのグラフは、左側が20年度の決算の時点での数字で、右側は今回の上期時点での見通しです。2021年度上期末有利子負債残高については1兆8,000億円程度と見ております。一方、Debt/EBITDA倍率という観点では、EBITDAが非常に上期に改善するという事で、この断面で切り取って計算いたしますと、年換算で2.9倍ということになります。7次中期での到達目標を3倍程度と申しておりましたので、この上期でほぼ中期の数字にいったん到達しているということになります。



当期の中間配当については、
1株当たり60円とする方針を取締役会において
決議いたしました。

期末の配当については、
今後の業績動向を見極めつつ検討することとしており、
未定としております。

12

それから配当についてでございます。

中間配でございますが、1株当たり60円という方針とさせていただきます。上期の当期利益見通しで計算いたしますと、配当性向約27%程度ということになります。期末の配当については、今中期でも30%程度ということの方針としておりますが、それに沿った形で、今後業績動向を見極めつつ検討するというところで、現時点では未定とさせていただきます。



2021年度 第1四半期決算

JFEスチール

	単位	2020年度					年間	2021年度
		4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月		
売上収益	億円	5,087	5,186	5,802	6,476	22,552	6,385	
セグメント利益	億円	▲578	▲784	343	364	▲654	697	
棚卸資産評価差除き*	億円	▲348	▲334	143	224	▲314	257	
単独粗鋼生産量	万t	479	538	627	632	2,276	625	
連結粗鋼生産量	万t	509	568	659	660	2,396	659	
単独鋼材出荷量	万t	459	475	542	572	2,049	526	
鋼材輸出比率 (単独・金額ベース)	%	44.2	40.2	40.3	44.3	42.3	43.2	
鋼材平均価格	千円/t	75.3	71.0	73.4	78.8	74.8	87.6	
為替レート	円/ドル	107.7	105.9	104.8	104.7	105.8	109.8	
期末為替レート	円/ドル	107.7	105.8	103.5	110.7	110.7	110.6	

*セグメント利益から、棚卸資産評価差、原料キャリーオーバー、為替換算差を除いた損益

14

JFE スチールの第1四半期の決算の内容です。

数表をつけてございますが、まず第1四半期のセグメント利益は697億円の黒字です。単独の粗鋼量は625万トンです。

それから輸出比率については、4-6月の実績で43%程度です。鋼材平均価格は8万7,600円ということで、2020年4-6月期と比較いたしますと、1万2,000円ほど上昇しています。2020年度1-3月期と比較いたしましても、約9,000円の上昇です。



2020年度4-6月⇒2021年度4-6月

JFEスチール

セグメント利益 +1,275億円内訳

JFEスチール	2020年度					2021年度	(億円)
	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	年間	4-6月	増減 対前年同期
セグメント利益	▲578	▲784	343	364	▲654	697	1,275

1. コスト	+150	・設備投資効果発現 ・減産コストアップの縮小 等
2. 数量・構成	+250	・鋼材需要回復による数量増 (粗鋼量 479⇒625万t +147万t)
3. 販価・原料	▲110	(≒鋼材トンあたり：▲2,100円) ・販売価格の改善はあるも、 鉄鉱石価格上昇によりスプレッドは悪化
4. 棚卸資産評価差等	+670	・棚卸資産評価差+490 (▲210→+280) ・原料キャリーオーバー影響+150 (±0→+150) ・為替換算差+30(▲20→+10)
5. その他	+315	・国内外グループ会社収益の改善 等

15

続いて損益増減の内訳でございます。

昨年2020年度の第1四半期と比較いたしますと、マイナスの578億円から697億円のプラスということで、1,275億円の改善です。まずコストにつきましては150億円のプラスということで、投資効果の発現とともに、2020年度の第1四半期はまさにコロナウイルス感染拡大の影響で30%ぐらいの減産をしたタイミングでありまして、この時点では減産のコストアップが生じておりました。これが今期はないということも含めて150億円となっています。

それから数量に関しましては、粗鋼生産量が2020年度第1四半期、479万トンでしたので、147万トンの増産ということで、250億円程度のプラス方向です。一方、スプレッドですが、110億円のマイナスです。需給改善しておりますので、販売価格は大幅に改善しておりますけれども、鉄鉱石の価格が大幅に上がっておりますので、両者の差し引きでスプレッドは悪化になっています。

続いて、原料価格も今大幅に上昇していることにより、棚卸資産評価差は大きくプラス、キャリーオーバー影響も含めて大きくプラス方向に働いています。

その他について、国内外グループ会社の収益改善と記載しておりますが、これで約 260 億円程度増益となっております。



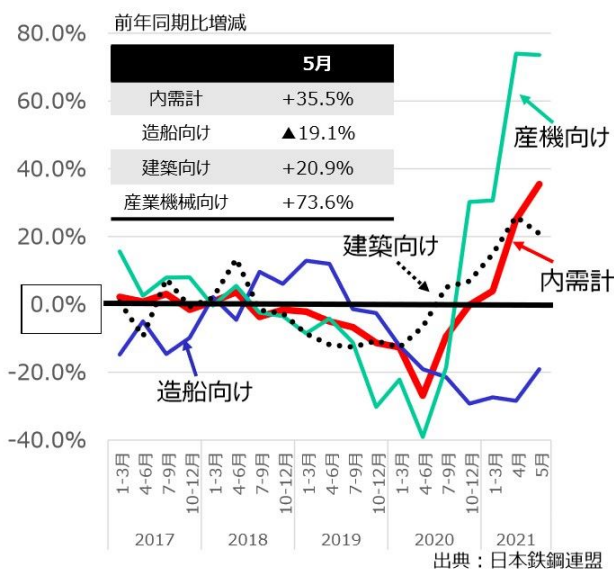
足下の事業環境認識（国内鋼材需要）

JFEスチール

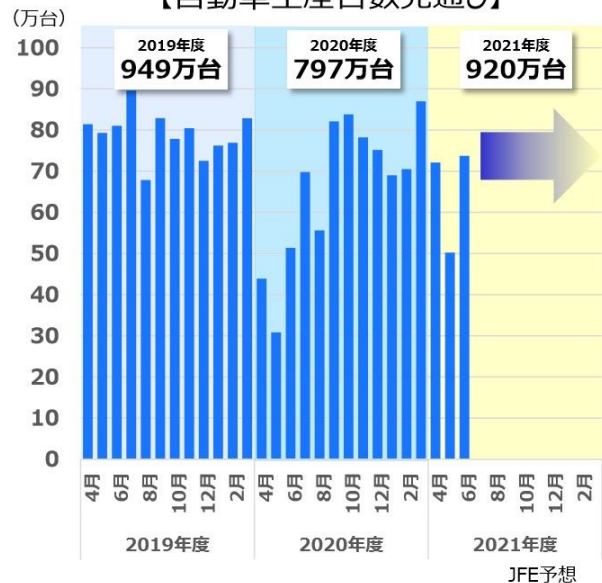
JFE

- **製造業を中心に需要堅調、鋼材需要の回復基調が継続**
- 21年5月の普通鋼鋼材受注は**前年度比+35.5%**と大幅な回復基調
- 自動車生産台数は足下半導体不足影響を受けて生産減が発現
夏以降挽回を想定するも、半導体・部品供給影響の長期化リスクあり、動向注視

【普通鋼鋼材受注推移】



【自動車生産台数見通し】



16

それでは、足下の事業環境を簡単にご説明いたします。

まず国内についてですが、製造業中心に需要堅調、鋼材の回復基調は継続しています。2021年5月の普通鋼の鋼材受注は前年度比35.5%と大幅な回復基調です。下の左側に普通鋼鋼材受注の推移グラフを入れておりますが、ご覧のとおり、直近で右肩上がりです。

それぞれ産機向け、建築向け、足下上昇しています。造船向けは唯一、対前年同期比でマイナスではありますが、ただ造船もここへ来て、受注状況を回復しているということで、当初想定よりは回復基調になってきています。

続いて自動車につきまして、スライド右側に自動車生産台数の見通しを載せており、2021年度の生産台数は920万台を見込んでおります。ただ、足下、半導体不足の影響を受けて、生産減も見られております。夏以降は生産挽回ということで、現在920万台の見通しを設定しておりますが、先ほど申し上げた半導体不足に加えて、コロナウイルス感染拡大の影響等による部品供給不足

の影響も出てきており、これらについてリスクがあると考えております。動向は引き続き注視してまいります。



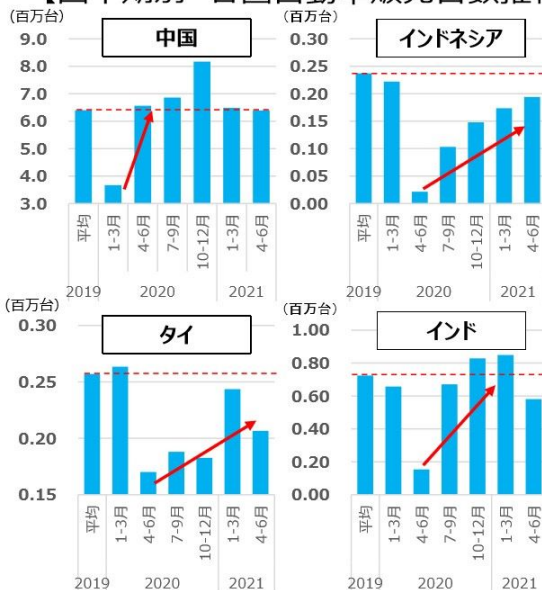
足下の事業環境認識（海外鋼材需要）

JFEスチール

JFE

- ▶ 海外鋼材需要は総じて回復基調が継続
- ▶ インド、ASEANのコロナウイルス感染再拡大による動向は要注視
- ▶ 中国、インド、ロシアの東南アジア市場への輸出進出も限定的で、アジア市場の需給は安定する見込み

【四半期別 各国自動車販売台数推移】



【2021年暦年実質GDP成長率見通し】

(矢印は前回見通しからの変動)

	世界平均	米国	中国	インド	ASEAN-5
参考:2020年実績	▲3.3%	▲3.5%	2.3%	▲8.0%	▲3.4%
21/4見通し	6.0%	6.4%	8.4%	12.5%	4.9%
21/7見通し	6.0%	7.0%	8.1%	9.5%	4.3%

出典：IMF World Economic Outlook Update 21/3/23公表・21/7/27公表

*ASEAN5 : タイ・マレーシア・インドネシア・フィリピン・インドネシア

【各国の鋼材輸出動向】

	動向
中国	<ul style="list-style-type: none"> 中国当局による内需喚起活発 2020年対比で粗鋼減産の動き、需給均衡 鋼材輸出の大半で増値税還付撤廃（8/1～対象拡大）
インド ロシア	<ul style="list-style-type: none"> 経済回復による内需回復傾向 EU等他地域への輸出により、東南アジアへの輸出は限定的

17

次に海外の鋼材需要です。

海外についても、総じて回復基調を継続することを想定しています。ただ、インド、ASEANに關しましては、コロナウイルスの感染の再拡大による動向をよく注視していきたいと考えております。

スライド左下、自動車の販売台数について各国別にグラフを用意しております。ご覧のとおり中国については、非常に堅調な動きであります。インドネシアはコロナウイルスの影響等々も言われておりますが、想定よりは回復基調であると考えております。

一方、タイは年度内に取り戻すとは言われておりますが、動向を見極めていかななくてはいけないと考えております。

インドについても、2021年5月にロックダウンがございましたのでかなり影響が出たのですが、6月以降は回復基調ということで数量を戻してきている印象です。

総じて言うと、スライド右側にIMFのGDPの成長率見通しを載せておりますが、2021年4月の予測段階と比べると、アメリカはさらに回復する見込み、中国はほぼ横ばい、インド、ASEANに関しては、回復の足どりが2021年4月時点よりは少し落ちており、先ほど申しあげました通り動向を注視する必要があるということです。

一方、各国の鋼材輸出動向ですが、ご存じのとおり中国に関しては、内需喚起策を積極的に打っていることに加え、昨年対比、粗鋼の減産ということも政府が言っております。そういった中で、増値税の還付というのもほとんどの鋼材輸出について撤廃をされているということもあり、中国材がアジアに出てくるということはあまりないと考えております。

加えて、インドあるいはロシアミルも、一つは自国での経済回復による内需の回復というものもございますが、もう一つは、EU等で鋼材価格が非常に高いということもあり、そちらの地域への輸出が優先され、アジアにはあまり出てこないと想定しています。それらを総じて考えると、アジアのマーケットの需給という観点では、安定的ではないかということでございます。



粗鋼生産量見通し

- 21年度の単独粗鋼生産量は、**2,650万トン程度**を見込む
(上期1,300万トン弱、下期1,350万トン強 年度見通しは前回から変動なし)

メタルスプレッド

- **主原料価格**
旺盛な鋼材需要を背景に、**当面は足下レベルの高値圏で推移**すると想定
- **輸出鋼材市況**
鋼材需要は回復傾向が継続し、アジア市場の需給は均衡が保たれ
市況高位が継続すると見込む
- **国内輸出トータルのスプレッド**は**前回見通し比+280億円の改善**を見込む

金属・スクラップ価格

- 需給のタイト化を受け、ほぼすべての金属で**足下高騰**

18

それでは次に、私どもの業績見通しの前提です。まず粗鋼生産量について、2021年度の単独粗鋼は2,650万トン程度です。前回の見通し公表で申し上げた数値から変動はございません。上下別に申し上げますと、上期で1,300万トン弱、下期は1,350万トン強といった内訳です。

メタルスプレッドですが、まず主原料価格については、非常に今高いということで、当面は高値レベルで推移すると考えています。直近では、鉄鉱石が今週に入って非常に下がっている事実はございますけれども、私どもの見方としては、高値圏の推移ということで想定をしております。

それから、輸出の市況ですが、先ほど海外の需要状況の中でも申し上げましたけれども、鋼材需要が回復というのは継続している中で、アジアのマーケットの需給は均衡を保たれることを考えております。従って、鋼材市況は高位な状況が継続することを想定しております。

結果、トータルのスプレッドは前回見通し比280億円の改善を見込んでおります。

ただ一方で、製造コストとして足下の懸念材料は、金属・スクラップ等の価格です。需給のタイト化を受けて、ほぼ全ての金属で足下高騰しており、製造コストに大きく影響を及ぼしてきています。



販売価格改善の取り組み

- 下記の取り組みに関して、**お客様の理解は分野を問わず広がっており、販売価格改善を着実に推進している**
- 原料コストの上昇局面が継続する中で、**販価改善施策をさらに強力で推進していく**

◆ 原料コスト早期反映

原料コストの上昇分の確実かつ早期の価格反映に取り組む

- 原料コストに連動して販売価格を決める取引：**原料コスト参照期間の短縮化**
- 個別交渉により販売価格を決める取引：**原料コスト確定後1カ月程度での反映**
- **金属・スクラップのコスト上昇分**に関しても**鋼材価格への反映**を加速

◆ 海外市況の捕捉

市況との連動性が高い品種・分野に関しては、**原料コスト上昇分を上回る価格改善**について認めていただいている

◆ エキストラ見直し

既に一部では改定を実現。実態にそぐわなくなっている部分もあるため、**見直しを加速**

◆ 持続可能な価格水準への是正

継続的な取引の中でも、安定的な収益水準を確保できていない一部については、**持続可能な価格水準への是正**を推進

19

そういった中で、私どもの具体的な取り組みを紹介させていただきます。まず、販売価格改善への取り組みについてです。

下に4項目、取り組みを並べておりますが、これらについてお客様の理解は分野を問わず理解は広がってきており、販売価格の改善を着実に推進しております。

また、原料コストの上昇が継続している中で、これらの施策をさらに強力で推進していくという考えです。

具体的に取り組みについて申し上げますと、まず一つは、原料コストの早期反映について、原料コストの上昇分について、早期にかつ確実に価格に反映していきます。

いわゆる原料の価格に連動して販売価格を決めるような取引については、原料コストの参照期間とこのをできるだけ短縮化して、上昇する原料のコスト見合いの価格転嫁を早期に進めるという活動です。

それから、個別の交渉により販売価格を決めているような取引については、原料コストの確定後、すぐ翌月にはそれを販売価格に反映して交渉していくというような取り組みを進めています。

さらに加えて、先ほども申しあげました、金属・スクラップのコストが上がっておりますので、この鋼材価格への反映というのを加速するという取り組みも行っております。

それから2番目の取り組みは、海外市況の捕捉です。国内の取引においても、市況との連動性が高い品種分野というものについては、海外のマーケットが非常に高いということを認めていただいて、原料コストの上昇分を上回る価格改善に取り組み、成果を出しているということです。

さらに3番目の取り組みは、これは中期計画等でも申しあげておりますが、エキストラの見直しです。これは網羅的に、時間をかけて進めているところではありますが、直近、一部では改定の実現という成果も出てきています。これら見直しをさらに加速していきたいということです。

それから最後に、持続可能な価格水準への是正についてです。継続的な取引の中で、安定的な収益が確保できない部分、そういったものは正直一部ございます。この先、私どもの鋼材生産が絞られていく中で、持続可能な価格水準、きちんと収益が出る水準へ是正を推進していくということです。逆に申し上げますと、そういった水準にいかないものについては、取引そのものを見直していく必要もあるのではないかと考えております。



プロダクトミックスの高度化（量から質への転換）

7次中期で掲げた下記のような取り組みを着実に進め、**高付加価値品比率を引き上げ、収益基盤の強化**を推進していく

- **洋上風力発電用大単重厚板の製造体制の確立を推進**

（倉敷第7連続鋳造設備稼働 21年6月）

2021年6月16日 リリース
関連項目：p.31-32参照

- **電磁鋼板戦略の推進**

- 倉敷地区 無方向性電磁鋼板(N/O)製造設備増強

2021年4月1日 リリース

- JSW社との方向性電磁鋼板(G/O)のJVのFS実行

2021年5月7日 リリース

- **世界初となるハイテンの熱間連続圧延技術を開発**

～ハイテンの安定生産・生産性向上に大きく寄与し 増加するハイテン需要に対応

2021年5月6日 リリース

20

それからもう一つ、中期計画でも言及しておりましたが、プロダクトミックスの高度化、いわゆる、量から質への転換という観点についてご紹介します。中期計画期間が始まったばかりですので、如実な成果というのはまだこれからではありますが、中期計画でも掲げました取り組みを着実に進めて、高付加価値品の比率を引き上げて、収益基盤を強化していきたいと考えています。

事例としまして、1点目、洋上風力発電用の大単重厚板の製造体制の確立ということで、この6月にそのキーとなります倉敷の第7連続鋳造が稼働をしているということが挙げられます。

2点目、電磁鋼板につきまして、倉敷で無方向性電磁鋼板（N/O）の製造設備の増強に取り組んでおり、インドのJSWとの方向性電磁鋼板、これのJVに向けたFSも実行しております。

さらに3点目に挙げておりますのは、世界初となるハイテンの熱間連続圧延技術開発についてです。当技術は既に2019年から千葉において適用しているものです。この連続圧延が可能になることによって、ハイテンの安定生産・生産性向上、これから増えていくであろうハイテン需要に対応していくという点で、非常にキーとなる技術と考えております。以上3点のように、量から質への転換を進めていくということでございます。

次のページは、原料市況や鋼材市況を並べたグラフですが、説明割愛いたします。ご参照ください。



JFEスチール 2021年度 業績見通し

JFEスチール

JFE

	単位	2020年度 年間	2021年度					2021年度 年間 前回見通し
			4-6月	7-9月	上期	下期	年間	
売上収益	億円	22,552	6,385	8,115	14,500	16,800	31,300	
セグメント利益	億円	▲654	697	903	1,600	1,200	2,800	1,400
棚卸資産評価差等 除き*	億円	▲314	257	493	750	480	1,230	840
単独粗鋼生産量	万t	2,276	625	670 程度	1,300 弱	1,350 強	2,650 程度	2,650 程度
連結粗鋼生産量	万t	2,396	659	700 程度	1,360 弱			
単独鋼材出荷量	万t	2,049	526	620 程度	1,140 程度			
鋼材輸出比率 (単独・金額ベース)	%	42.3	43.2	50 程度	47 程度			
鋼材平均価格	千円/ t	74.8	87.6	100 程度	95 程度			
為替レート	円/ドル	105.8	109.8	110 程度	110 程度	110 程度	110 程度	105 程度

*セグメント利益から、棚卸資産評価差、原料キャリアオーバー、為替換算差を除いた損益

22

次に、JFE スチールの年度見通しの前提、損益内訳についてご説明します。

損益については、セグメント利益で上期 1,600 億円、下期 1,200 億円、年間 2,800 億円ということで、前回公表での年間見通し 1,400 億円から倍増です。

粗鋼生産量についても、年間で 2,650 万トンのレベルです。



2021年度 セグメント利益 対前回見通し +1,400億円内訳

JFE

- 至近の原料価格の高騰は一定期間継続するも、販価の改善（輸出の市況改善、国内の主原料価格反映）を見込み、スプレッドは回復の見通し
- 対前回見通しでは、棚卸資産評価差等を中心に損益改善

(億円)

JFEスチール	2021年度 前回見通し	2021年度 今回見通し	増減 対前回
セグメント利益	1,400	2,800	+1,400
1. コスト	±0	• 対前年度+300億円を計画	
2. 数量・構成	±0	• 粗鋼量 2,650万t程度	
3. 販価・原料	+280	(≒鋼材トンあたり：+1,200円) • 主原料市況は足下レベルの高値圏継続も、販売価格上昇によりスプレッド改善	
4. 棚卸資産評価差等	+1,010	• 棚卸資産評価差+750 (+390→+1,140) • 原料キャリーオーバー影響+250 (+170→+420) • 為替換算差+10(±0→+10)	
5. その他	+110	• 国内外グループ会社収益の改善 • スクラップ・金属等の物価上昇 等	

23

次に損益増減の内訳についてです。最初に、年間の収益見通しについて、前回見通し 1,400 億円から、今回見通し 2,800 億円、1,400 億円改善している内訳をご説明します。

コスト、数量については、前回と変動はございません。スプレッドについて、280 億円の改善です。販売価格については、輸出はもちろんそうですが、国内についても先ほど申し上げたような施策によって、販価の改善を着実に取り組んでおります。

一方、原料コストについては、鉄鉱石価格、原料炭価格とも、非常に高い水準にあるということで、特に鉄鉱石価格アップが金額として大きく影響しています。

それから大きいのは、棚卸資産評価差等です。棚卸資産評価差で 1,010 億円、棚卸資産で 750 億円、キャリーオーバーで 250 億円の内訳であります。原料価格が大幅に上がる中で、こういった評価差あるいはキャリーオーバーによる影響のプラスが大きく寄与しています。

続いて、その他で 110 億円のプラスです。国内外グループ会社収益の改善について、海外グループ会社の寄与が非常に大きく、国内海外合わせると 570 億円程度のプラスです。

一方で、先ほど来申し上げているスクラップ・金属等の物価上昇等があり、相殺するような形になっています。



JFEスチール

2021年度 セグメント利益 対前年度 +3,454億円内訳

JFE

- ・ 新型コロナウイルス影響を大きく受けた2020年度からは需給環境が大幅に回復
- ・ 輸出を中心とした市況好転・数量増、国内外のグループ会社収益の改善により、対前年度で大幅な改善を見込む

JFEスチール	2020年度 実績	2021年度 見通し	(億円) 増減 対前年度
セグメント利益	▲654	2,800	+3,454
1. コスト	+300	・ 新規設備投資効果等	
2. 数量・構成	+700	・ 鋼材需要回復による数量増 (粗鋼量 2,276⇒2,650万t程度)	
3. 販価・原料	+430	(≒鋼材トンあたり：+1,800円) ・ 主原料市況は足下レベルの高値圏継続も、販売価格上昇によりスプレッド改善	
4. 棚卸資産評価差等	+1,910	・ 棚卸資産評価差+1,510 (▲370→+1,140) ・ 原料キャリーオーバー影響+390 (+30→+420) ・ 為替換算差+10(±0→+10)	
5. その他	+114	・ 国内外グループ会社収益の改善 ・ スクラップ・金属等の物価上昇 等	

24

それから対前年度との比較です。

今年度の見通しが2,800億円、昨年2020年度がマイナス654億円でありましたので、変動が約3,450億円です。内訳的は、コストで300億円のプラス、数量は、粗鋼生産量が370万トン強増えますので700億円のプラスです。

スプレッドに関しては430億円のプラスです。販売価格については、国内・輸出ともに大幅に上がっている影響で大きなプラスです。一方原料については、鉄鉱石価格が大幅に上昇すると見込んでおり、販売価格と原料価格を合計して、430億円のプラスです。

対前年度比較のうち、棚卸資産評価差等の影響が非常に大きくなっており、内訳はご覧のとおりです。状況としては、先ほどご説明の前回見通し対比と同様です。

その他につきまして、こちらも前回見通し対比の内容と同様の傾向です。国内外グループ会社の収益改善は、800億円強ございまして、大きく寄与しております。一方で、スクラップ・金属の上昇

に加えて償却費の増加等のコストアップ要因あり、それらを合計した形でプラス 114 億円ということですが、



2021年度上期⇒下期 セグメント利益 ▲400億円内訳

JFE

- 下期にかけて粗鋼生産量は増加し、コスト改善も進捗する
- 需給がタイトな環境が継続し、主原料物価に加えその他原料の物価も上昇
- 下期損益は上期からの悪化を見込む

JFEスチール	2021年度 見通し			増減 2021上→下
	上期	下期	年間	
セグメント利益	1,600	1,200	2,800	▲400
1. コスト	+150			<ul style="list-style-type: none"> • 新規設備投資効果 • ソフト改善、補修費削減 等
2. 数量・構成	+130			<ul style="list-style-type: none"> • 国内外の経済復調を背景に、緩やかな需要回復を見込む • 倉敷第4高炉の改修工事完了に伴う生産量増 (粗鋼量 1,300万t弱⇒1,350万t強)
3. 販価・原料	±0			<ul style="list-style-type: none"> • 主原料市況は足下レベルの高値圏継続も、下期にかけて一段の販売価格改善推進
4. 棚卸資産評価差等	▲130			<ul style="list-style-type: none"> • 棚卸資産評価差+60 (+540→+600) • 原料キャリアオーバー影響▲180 (+300→+120) • 為替換算差▲10(+10→±0)
5. その他	▲550			<ul style="list-style-type: none"> • 海外グループ会社上期好調 • 減価償却費・経費 • スクラップ・金属等の物価上昇 等

25

続いて、21年度上期と下期の段差についてご説明します。上期 1,600 億円、下期 1,200 億円なので 400 億円下期のほうが悪化するということになっておりますが、内訳はご覧のとおりです。コスト削減 150 億円のプラス、数量については、倉敷の第 4 高炉が 12 月に改修工事完了で生産が始まることを織り込み、その分の段差を含めて 130 億円のプラスです。

それからスプレッドですが、プラスマイナスゼロです。主原料価格は、足下レベルで高値圏継続ということで、上期対比で主原料コストは上昇します。一方で販売価格についても上げていくということで、合算するとゼロ、ということになります。

棚卸資産評価差等については、キャリアオーバー影響にて、上期のプラスのほうが下期のプラスよりも大きいということでマイナス方向になります。

その他について 550 億円のマイナスになっております。海外のグループ会社について、上期は非常に良い業績見込みを織り込んでおりますが、下期についてはそこまでの水準では見ておりません。さらには償却費、経費関係も下期に一部集中するものがあります。金属類の物価上昇等コストアップ要因があり、550 億円のマイナスを見込んでおります。



2021年度 業績見通し

JFEエンジニアリング

JFE

足下の事業環境/損益概況

- 国内の事業環境は**環境・エネルギー関連分野**および**インフラ分野**ともに**堅調に推移**
- 海外については、**欧州**の環境関連分野が**引き続き堅調に推移**
- 企業買収による増収等により、**セグメント利益は前年度を上回る見通し**で引き続き安定的な収益を確保

業績見通し

(億円)	20年度実績		21年度見通し		増減 (対前年同期)		前回見通し 年間
	上期	年間	上期	年間	上期	年間	
受注高	2,989	5,011	3,000	5,500	11	489	5,500
売上収益	2,219	4,857	2,400	5,200	181	343	
セグメント利益	87	240	100	250	13	10	250

対前年同期

【年間見通し】

- ・受注高 +489 企業買収*、カーボンニュートラル分野の大型案件の受注増
- ・売上収益 +343 前年度受注高拡大、企業買収*による増加
- ・セグメント利益 +10 売上収益増により増加

*2021年4月1日株式取得完了 旧) 三井E&S環境エンジニアリング株式会社 現) JFE環境テクノロジー株式会社 27

次にエンジであります。

エンジの状況としては、国内は環境・エネルギー分野、インフラ分野ともに堅調に推移しています。海外についても、特にヨーロッパの環境分野、引き続き堅調に推移しており、今年度の受注については、上期 3,000 億円、年間では 5,500 億円の見通しです。

利益に関してですが、企業買収による増収・増益も寄与し、セグメント利益は、前年度を 10 億円ではありますが上回ると見ておりまして、250 億円を予定しております。



2021年度 業績見通し

JFE商事

JFE

足下の事業環境/損益概況

- ▶ 上期は、コロナ影響により大幅に落ち込んでいた**国内外の需要回復**に加え、**鋼材市況の急上昇**により**国内外グループ会社の収益が拡大**し、大幅な増益の見通し
- ▶ 下期は、鋼材市況は上期並みの水準が継続する前提であるも、仕入価格の上昇により**スプレッドは平常レベルに収束**すると見込まれる
- ▶ 通期では**セグメント利益380億円（対前年度+180億円）**を見込む

(億円)	20年度実績		21年度見通し		増減（対前年同期）		前回見通し 年間
	上期	年間	上期	年間	上期	年間	
売上収益	4,517	9,325	5,600	11,500	1,083	2,175	
セグメント利益	72	200	230	380	158	180	270

対前年同期

【年間見通し】

- ・セグメント利益 +180 上期における国内外の需要回復および市況急上昇によるスプレッド拡大、国内薄板グループ会社や米州を中心とした海外グループ会社での大幅な増益等

対前回見通し

【年間見通し】

- ・セグメント利益 +110 上期における鋼材市況の好転によるスプレッド改善等

29

それから次に、JFE 商事であります。

商事の事業環境は、先ほど、スチールでお話しした内容と同じようなところがありますが、特に上期については、国内外の需要回復と、鋼材市況が非常に上がっているということもあり、商事そのものだけでなく、特に国内外のグループ会社の収益が拡大し、大幅な増益を見込んでおります。上期セグメント利益は 230 億円を見込んでおり、前年同期と比較いたしましても 158 億円と大幅な増益というのを見込んでいます。

下期については、鋼材市況は上期並みの水準と見ています。一方で、商社としては、仕入価格が上期に比べると上がっていくということもあり、スプレッドについては、上期と比較いたしますと少し縮小する見通しです。「平常レベルに収束」という言い方をしておりますが、このような見込みを含意しています。

したがって、下期セグメント利益は 150 億円を見込んでおり、年間セグメント利益見通しは 380 億円でございます。



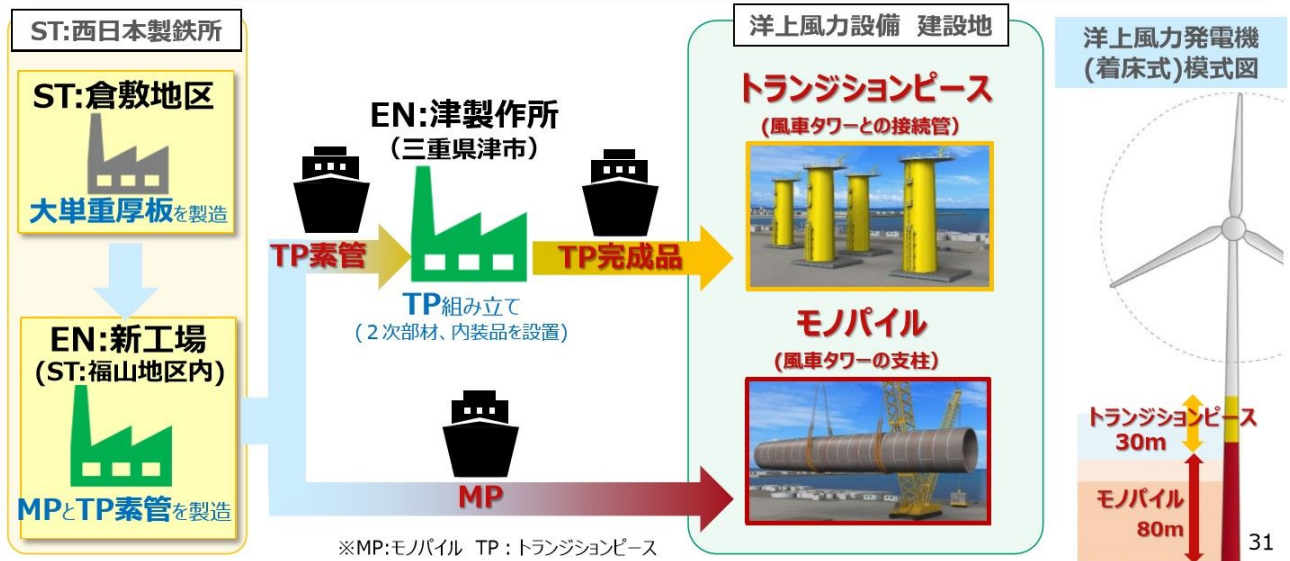
洋上風力モノパイル基礎の製造事業の実施



JFE

- JFEエンジニアリングは洋上風力設備の着床式基礎（モノパイル式）新工場の設備投資を決定
- モノパイル新工場（岡山県笠岡市*）とトランジションピース組立工場（三重県津市）への設備投資総額は約400億円を見込む *JFEスチール西日本製鉄所福山地区内
- モノパイル製造拠点を速やかに建設するとともに、将来的にはジャケット式基礎**を加え、洋上風力基礎構造のフルラインナップ体制を確立し、急拡大する洋上風力発電の建設需要に対応し、カーボンニュートラル実現に大きく貢献していく

**洋上風力設備の着床式基礎の一種。



それでは、トピックスということで、いくつかテーマについてお話をさせていただきます。

一つは、先ほども途中で少し触れましたが、洋上風力に関するトピックスです。モノパイルの基礎の製造事業の実施ということで、JFE エンジニアリングがモノパイルの新工場を岡山県笠岡市に建設することを決定しました。

下の図をご覧ください。まず JFE スチール西日本製鉄所の倉敷地区で素材となる大単重厚板を製造します。今回新たにエンジがモノパイル工場を立ち上げるのは、同じ JFE スチール西日本製鉄所内の福山地区の敷地内です。JFE スチールが倉敷地区で製造した大単重厚板を、同じ西日本製鉄所内に建設された新工場に輸送した後、モノパイルとトランジションピース素管を製造し、モノパイルについてはそのまま出荷されます。トランジションピースについては、新工場で製造したトランジションピース素管を JFE エンジニアリング津製作所に輸送し、2次部材、内装品を設置して完成品として出荷するといった流れになります。

投資については総額 400 億円程度を見込んでおります。モノパイル製造拠点を速やかに建設して稼働させるということとともに、先々、将来的にはということですが、ジャケット式の基礎を加え

て、洋上風力の基礎構造のラインナップを取り揃え、洋上風力発電の需要に対応していきたいと思っております。



西日本製鉄所 上工程大型設備の稼働開始

JFE

- 国内製造基盤強化のための投資案件である、西日本製鉄所の上工程設備2件が稼働開始
- 倉敷地区の新連続鋳造機の稼働により、**高品質かつ大断面・大単重の洋上風力用の厚板を量産することが可能**

①倉敷地区 第7連続鋳造設備 稼働開始

- 大断面スラブを高効率で鋳造可能
- 同地区厚板ミルと組み合わせて、**世界最大級の大単重厚板を提供**

稼働時期：2021年6月
生産能力：200万トン/年
投資額：530億円
品種：厚板・薄板

ST福山地区内にJFEエンジが新設する
モノパイル製造新工場へ素材提供



②福山地区 第3コークス炉B団 稼働開始

- コークス生産効率を向上し、発塵防止やNOxの排出削減等、**環境に配慮した操業を実現**

稼働時期：2021年6月
生産能力：約36万トン/年
投資額：140億円



32

さきほどのトピックスに関連して次に挙げているのは、西日本製鉄所での設備の稼働です。1に書いておりますのが、先ほど来申し上げております、倉敷の第7連続鋳造機の稼働開始であります。6月に稼働を開始しております。

大単重のスラブを高効率で製造可能で、世界最大級の大単重厚板を提供できます。ここから、先ほど申し上げたように、エンジのモノパイル工場にも素材を提供するということです。

それから、2番目は、福山の第3コークスの稼働です。生産効率も上がるのですが、発塵防止とかNOxの排出削減等、環境にも配慮した操業ということで、こちら6月に稼働しています。

**ESG投資の代表的指数「FTSE4Good Index Series」*
「FTSE Blossom Japan Index」**の構成銘柄に2年連続選定**



FTSE4Good

***「FTSE4Good Index Series」**

2021年7月8日 リリース

<https://www.ftserussell.com/ja/products/indices/ftse4good>

ロンドン証券取引所の子会社であるFTSE Russellが開発し、環境、社会、ガバナンスについて優れた対応を行っている企業を選定。サステナブル投資のファンドや他の金融商品の作成・評価に広く利用。



FTSE Blossom Japan

****「FTSE Blossom Japan Index」**

<https://www.ftserussell.com/ja/products/indices/blossom-japan>

FTSE Russellが作成した、環境、社会、ガバナンス(ESG)の対応に優れた日本企業のパフォーマンスを反映するインデックス。

当社は、GPIFが選定するESG投資指数のうち、「FTSE Blossom Japan Index」、「WIN(MSCI日本株女性活躍指数)」、「S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数」の3つの構成銘柄に選定されています。

**気候変動・安全・コンプライアンス等のESG課題への継続的な取り組みを推進し、
持続可能な社会の発展に貢献**

33

次に、ESG 投資指数の構成銘柄に選定ということを入れております。

FTSE の Good Index Series というのと、Blossom Japan Index、この構成銘柄に2年連続選定をされております。環境、社会、ガバナンスについて、優れた対応を行っている企業が選ばれるというものであり、私ども、引き続き継続的な取り組みを推進して、持続可能な社会の発展に貢献してまいります。

JFEホールディングス 「DX銘柄2021」に7年連続選定

2021年6月8日 リリース



- JFEホールディングスは、DXを積極的に推進する企業として「DX銘柄2021」に選定
- 当銘柄の前身の「攻めのIT経営銘柄」を含めると、**7年連続での選定**

JFEスチール 「IT Japan Award 2021」準グランプリ 受賞

2021年6月8日 リリース



- JFEスチールは、日経コンピュータ主催の「IT Japan Award 2021」において、「高炉CPS」および『J-mAlster®』に関する取り組みが評価され、**準グランプリを受賞**

今後も革新的な生産性向上、既存ビジネスの変革、新規ビジネスの創造を中心に、あらゆる事業領域においてDXを推進

34

最後に、DX に関してです。

社外評価ということでいきますと、DX 銘柄 2021 に 7 年連続で選ばれたということでございます。今年も、特に鉄鋼事業では、IoT、AI、データサイエンス等の積極的な導入によるテクノロジーの革新、データ資産の活用が評価されました。

加えて、エンジニアリング事業でもデータ解析のプラットフォーム、独自開発した AI エンジンの活用等が評価され、7 年連続で本銘柄に選ばれております。

さらに、この下にありますのは、IT Japan Award 2021 準グランプリというものですが、これは優れた IT 活用事例というものについて表彰されるものであります。私どもは、高炉の CPS、Cyber-Physical System や、制御支援システムであります J-mAlster 等が評価されて準グランプリを受賞しました。

DX に関しましては、既にご案内がいつているかと思いますが、今月の 26 日に改めて DX の説明会を開催する予定でございますので、その中でまた詳しくご説明をさせていただきたいと思っております。私からは以上となります。

質疑応答

司会：それでは、質疑応答に移りたいと思います。それでは、最初のご質問です。お願いいたします。

質問者：1点目は下期の業績予想についてです。鉄鉱石と原料炭およびホットコイルの価格の前提を教えてください。過去数か月の足下の状況は、鉄鉱石、原料炭の価格は約200ドル程度で、アジアのホットコイルの価格は約900ドル台半ばでしたが、概ねその水準で想定しているのでしょうか。

また第1四半期の持分法損益が大変好調で、恐らくJSW スチール、カリフォルニア・スチール等々の貢献が大きいと想定しています。第1四半期の実績を4倍すると約1,000億円ですが、先ほどの説明で、下期は上期よりやや利益が減るという前提だったと思いますが、主要な海外グループ会社の動向を教えてください。

2点目ですが、19ページの原料コストの早期反映について、もう少し詳しく教えてください。

JFE:1点目の下期の業績予想の前提については、具体的な数値は申し上げませんが、ほぼご推測のとおり、足下の水準が下期も続くと想定しております。海外のグループ企業の利益は、上期はある程度第1四半期のレベルが続くと想定していますが、下期については不透明な部分もありますので、上期よりは減益を想定しています。例えば、JSW スチールに関しては、アナリストコンセンサス等も参照して見直しを作成しています。

2点目の原料コストの鋼材価格への早期反映についてご説明します。例えば4～6月の鉄鉱石コストは2月末に、原料炭は5月末に確定しています。この原料価格の鋼材価格への反映は、従来ですと概ね2四半期程度先になるケースもあったのが現実です。現在、これをできるだけ1四半期先、また場合によってはもっと早期化できないかと、お客様と交渉をしているという事です。

投資家の皆様から指摘されているように、原料価格の鋼材価格への転嫁のタイムラグが、当社の利益のボラティリティの高さにつながっているということを理解しており、営業部門が現在価格転嫁の早期化に取り組んでいるところです。

質問者：原料上昇局面のときには、今まで以上に早期に利益を押し上げることができるとと思いますが、逆に原料が下がる時は早く鋼材価格が下がってしまうことになるのでしょうか。

JFE：上がる時だけ早期化という交渉はできませんから、下がる時も早期化していくことになると思いますが、一番重要なのは利益のボラティリティの大きさを解消していくことだと思っています。

司会：ありがとうございました。それでは次の方、お願いいたします。

質問者：1点目は上期から下期のスプレッドは横ばいとなっていますが、その考え方を教えてください。2点目は、紐付きの取引について国内価格が海外価格より大きく下回っているという見方もありますが、御社は国内外価格差についてはどのような方針で取り組むのか教えてください。

JFE：1点目ですが、原料コストの早期反映の成果も上がってきているのも事実ですが、ただ現実的には、原料コストが上がっているのと全く同じペースで上期の国内価格は上がっていません。下期にかけては、主原料見合いの価格アップは実現するという前提です。上から下にかけての段差は、原料価格の上昇と、上期に販売価格で反映できていない部分の下期での価格改善の総額が一致し、全体で横ばいと見ています。国内価格も下期のある時点では、主原料コストの上昇に見合った価格反映は出来ているという認識です。

2点目については、お客様によっては、市況価格も参考にしながら価格交渉しています。海外鋼材市況が原料コスト以上に上がっている状況や、輸入鋼材の価格上昇も踏まえ、お客様自身のご理解をいただいて、価格を上げる取り組みもしています。市況との連動性が高い、品種・分野については海外市況を見ながら交渉していく取り組みは強く進めているというところです。

司会：ありがとうございました。それでは次の方、お願いいたします。

質問者：1点目はスプレッドについて、下期から来年度にかけて、原料価格がピークアウトしてくる段階でマージン改善を確実に実現できるでしょうか。今年度は、原料価格上昇は棚卸評価益という形で大きく数字は出ていますが、基本的にこれはタイムラグであり、来年度には鋼材価格の値上により、マージンの改善に繋がられるのか教えてください。

2点目は、鉄鋼業界の生産能力の上方弾力性が限られてきており、アジアのマーケットでも中国、ロシアも輸出関税の負荷により供給環境が変化しています。御社も、生産能力の上方弾力性が限られている中で、プロダクトミックスの改善による利益改善が今年度あるいは来年度に出てくる余地はあるのか教えてください。

JFE：1点目は、販売価格の改善取り組みでご説明したとおり、原料コストの早期反映や、金属・スクラップコストの鋼材価格反映は推進していきませんが、あくまでもコストアップの価格反映なので、本質的なマージン改善には繋がりません。従って、来年以降の実マージンの改善で非常に重要となってくるのはそれ以外の部分です。

例えば、海外の市況と合わせた形で、国内価格を改善できる部分があれば、従来よりもマージンが上がっていきましますし、エキストラ価格の見直しも重要な活動になると思います。さらには、2点目にも若干関係するかもしれませんが、きちんと利益が出る品種に絞って供給するというのが、トータルのマージンの改善には非常に重要な課題だと認識をしています。これを実現することで市況がピークアウトする中でも実マージンの改善に繋げていきたいと考えています。

2点目については、中期計画の構造改革、2023年の京浜の上工程の停止後のプロダクトミックスを強く意識していきたいと思います。短期的なプロダクトミックス改善というよりも、構造改革後に持続可能な収益を上げられる品種に絞り込んでいかななくてはなりません。

足下こういう環境下での価格改善をお客様と議論する中で、今後生産量を絞っていく中では収益が上がらないものは製造できなくなることもお話ししながら、価格も決めていきたいと考えています。現在はこのようなプロセスで構造改革後のプロダクトミックスの構築を進めていく時期だと認識しています。

司会：ありがとうございました。それでは次の方、よろしく願いいたします。

質問者：1点目は、資料の22ページ目になりますが、第2四半期の輸出の比率が50%と高い背景を教えてください。また鋼材出荷量について、第1四半期が少なく、第2四半期にずれ込んでいる印象があるのですが、理由を教えてください。

2点目は、御社の販売価格改善の取り組みのスタンスが、従来よりも積極的になっていると感じましたが、その点について詳しくご解説ください。

JFE：1点目の輸出比率の上昇ですが、第1四半期から第2四半期にかけて輸出価格改善することと、輸出数量の増加を見込んでいます。

粗鋼生産は第1四半期が625万トンで、第2四半期が670万トン程度で、粗鋼生産が増加する前提です。もともと第1四半期についてはメンテナンス工事が集中して生産量がやや少ない状況でした。その中で、国内出荷量は四半期別には安定しているため、第1四半期は輸出出荷量がやや少なくなりました。第2四半期は粗鋼生産量の増加とともに、当社の提携先等への輸出が増えていく見通しです。

また出荷量が第1四半期に少ないという点ですが、どちらかという前年度の第4四半期において、年度末ということもあり出荷が促進されています。その結果第1四半期の粗鋼生産量と出荷量という観点では、出荷量がやや少なめになっています。

2点目については、JFE スチールは構造改革をして、トン当たり1万円の利益をあげるのが中期計画の目標です。その過程で生産量を減らし、品種の集中と選択をしていく必要があるのは明らかです。供給責任ということも考慮しつつ、お客様の理解を得ながら持続可能な価格を決める取り組みを推進していきます。

司会：ありがとうございました。それでは、次の方、お願いいたします。

質問者：私も2点ほど伺いできればと思います。

まず第1点は、8ページのセグメント別の利益についてです。最近、単体経常利益の改善ということが、課題になってきたと思います。今回のガイダンスで鉄鋼事業を全体で2,800億円のセグメント利益を年間見込まれていますが、単体の経常利益でどれぐらい見込まれていますでしょうか。

2点目は、倉敷の第4高炉の再稼働の状況についてです。16ページ目の図表で、需要も活況になってきているという説明もあったかと思えます。足下は全体的に御社、選別受注をしているとお察ししておりますが、倉敷の第4高炉について、計画どおり粛々と12月に稼働するという形で考えていらっしゃるのか。それとも需要が足下良くなっていますので、場合によっては去年、福山で実施されたように再稼働の前倒しというのでも検討されるのか、コメントいただければと思います。

以上2点、よろしく願いいたします。

JFE：単体損益については、回答を差し控えさせていただきます。

倉敷の第4高炉の改修につきましてですが、実際、改修工事にはパーツの作成・製作等もありますので、工事日程の前倒しは難しいと思っております。工事が完工した後、高炉を温めながら、石炭、コークス、鉄鉱石を入れて、順次高炉を立ち上げていきます。

したがって、最近バンキングから再稼働した福山地区の高炉の立ち上げや、過去の立ち上げの実績を解析しながら、この立ち上げにかかる期間をなるべく早くするというぐらいのことしかできないと考えています。

残念ながら生産能力という意味での上方弾力性の可能性というのは、このような方法に限定されると思っているというのが今の状況です。

司会：ありがとうございました。終了予定時刻となりましたので、次の方を最後のご質問とさせていただきます。お願いいたします。

質問者：2問よろしくをお願いいたします。

まず、1点目が価格に関してです。特に2021年度第1四半期から第2四半期にかけての価格に関して、鋼材平均価格が第1四半期の8万7,600円から、第2四半期で10万円と、1万2,400円上昇するという見通しですが、同業他社と比較するとやや低いように見えます。

説明会の中でも、第2四半期で輸出比率が上がってくるという言及もありましたし、今回、価格是正に関するかなり強めのコメントがありましたが、この第2四半期の見通しを計算される中で、現時点で一部未決着の紐付け価格等をどのように見込んでいるのか、コメントいただければと思います。

これが1点目になります。



JFEエンジニアリング 受注内容

JFEエンジニアリング

JFE

(億円)

分野	2020年度 実績	2021年度 見通し	増減	2021年度 第1四半期 主な受注内容
Waste to Resource	2,200	2,300	100	国内廃棄物処理施設 基幹改良工事[★高知]
カーボン ニュートラル	360	820	460	★松川地熱発電所更新工事[岩手] ★森バイナリー発電所建設工事[北海道]
複合 ユーティリティ サービス	110	150	40	
基幹 インフラ	2,341	2,230	▲111	国内橋梁新設 (★東海環状自動車道大野神戸IC橋他4橋[岐阜]) 国内橋梁改築 (★東名高速大井川橋他1橋床版取替[静岡])
合計	5,011	5,500	489	

51

それから2点目ですが、説明会資料の51ページのJFEエンジニアリングの受注内容に関してです。カーボンニュートラル関連の受注がかなり伸びてきていると思います。

足下、急速にカーボンニュートラルへの投資が増加していると思いますが、今後2年から3年という時間軸を見た場合、これがどれだけ継続的に伸びていくかを教えてください。

本中計におきまして、24年度の売上収益が、このカーボンニュートラル分野で800億円というご計画だったと思いますが、21年度で達成できるかと思います。足下、中計想定よりも上振れペースで受注が来ているのかどうかといったところ、コメントをお願いいたします。

以上2点です。お願いします。

JFE：1番目のご質問ですが、価格については、確かに第2四半期にかけて価格決着するものがありますので、それをある前提を置いて見込んでいるということは事実ではありますが、それが高めか低めかについては、コメントを差し控えさせていただきます。

それと、第1四半期から第2四半期の上がり幅が、やや小さいという点に関してですが、何とどう比べるかにもよりますが、2020年度の第4四半期との変化という観点では、同業他社と比較して相応の水準であるとは見えています。

一概にコメントできないところではあるのですが、第4四半期から第1四半期の上がり幅は、いろいろなもののタイミングや、もちろん品種構成等の影響もあると考えています。

多少、同業他社と比較すると第1四半期、第2四半期の入り繰りはあるかもしれないと理解しています。

価格については以上です。

JFEエンジの件ですが、これたまたま今期、地熱発電の案件などが取れたことに起因しています。例えば、われわれがカーボンニュートラルにカウントしているバイオマス、太陽光、地熱といったような再生可能エネルギー分野に関しては、同じような物件が来年もまた出てくるか不透明な部分もあります。

ただ一方で、洋上風力の基礎に関して、実際に受注が始まってくると、カーボンニュートラルの中でも、物件とは言いながら、ある程度安定的に収益に寄与してくる部分が出てくるので、やはり洋上風力関連の受注が出てきて、しっかりベースができたところで今回の地熱発電のような物件を取っていくというような形で、カーボンニュートラル分野で安定的に800億円を売り上げていくことが、エンジは大事であると思っております。

司会：ありがとうございました。以上で、質疑応答を終了させていただきます。

これもちまして、本日のインベスターズ・ミーティングを終了させていただきます。本日はご参加いただきまして、誠にありがとうございました。

[了]

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、提示された予測等は説明会の時点で入手された情報に基づくものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されまことはお控え下さいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。